

## 本報告書で使用されている報告単位について

環境放射線等モニタリング調査で実施されている環境放射能分析は、環境中に極めて微量に存在する放射性核種まで分析するため、環境試料を採取し、前処理・化学操作等を行った後、長時間（1日程度）の測定を実施しています。そのため、本報告書の調査結果を解釈する上で、報告単位を正しく理解することは大変重要なことです。本報告書で使用されている報告単位について、以下に示します。

### 1. ベクレル (Bq) について

放射能の強さを表す単位は、一般的にベクレル (Bq) を用います。これは、原子核が1秒間に1個壊変（不安定な原子核が壊れて安定な原子核になろうとする現象）する量を1ベクレルとといいます。

### 2. 環境試料における報告単位について

#### (1) 大気浮遊じん (mBq/m<sup>3</sup>)

大気中の浮遊じんをダストモニタという機器により約3ヶ月間連続吸引した後、分析を行います。報告単位は、吸引量(m<sup>3</sup>)に対する放射能の強さとして、「mBq/m<sup>3</sup>」を使用しています。

大気浮遊じん中の放射能濃度は、Bqの前に千分の一を表すm(ミリ)を付けています。

#### (2) 大気降下物 (MBq/km<sup>2</sup>)

大気降下物(雨やちりなど)を受水盤(受水面積:約5000cm<sup>2</sup>)により3ヶ月間採取した後、分析を行います。報告単位は、受水面積から換算して1km<sup>2</sup>に対する放射能の強さとして、「MBq/km<sup>2</sup>」を使用しています。

大気降下物については、1km<sup>2</sup>当たりの放射能濃度と大変広い面積に換算しているため、Bqの前に百万倍を表すM(メガ)を付けています。

### 3. 土壌 (Bq/kg 乾土)

土壌を採土器により深さ0~5cm及び深さ5~20cmを、それぞれ2~10kg程度採取した後、分析を行います。報告単位は、乾燥した土壌重量(kg 乾土)に対する放射能の強さとして、「Bq/kg 乾土」を使用しています。

### 4. 陸水 (mBq/L)

河川水あるいは湖沼水をバケツにより100L(リットル)採取した後、分析を行います。報告単位は、河川水あるいは湖沼水の容量(L)に対する放射能の強さとして、「mBq/L」を使用しています。

陸水中の放射能濃度は、Bqの前に千分の一を表すm(ミリ)を付けています。